

たかけい学報

Bulletin of Takasaki City University of Economics

高経大生の
キャンパスライフを
サポートする情報誌

no.89

特集

cafe あすなるオープン



特集

cafe あすなるオープン

ここに2つのコーヒーカップがあります。一見同じものに見えますが、手前のカップはおよそ40年の月日を越えたもの。後ろのカップは2013年に新たに作られたもの。

かつて高崎に「名曲茶房あすなる」という喫茶店がありました。その喫茶店には多くの詩人や音楽家、画家などの芸術家が訪れ、その空間で感じることでできる文化の香りはおこがれとなり、4半世紀の間、高崎の人々に愛されました。そして今年、「cafe あすなる」がその同じ場所に新たにオープンしました。カップに同じく刻まれる「あすなる」の文字に込められた思いとは。

今回は6月から営業を開始し話題になっている、高経大生が運営する喫茶店、「cafe あすなる」を特集します。

CONTENTS

- 1-2 特集「cafe あすなるオープン」
- 3-4 あすなるとその時代
- 5-8 あすなる学生リーダー座談会
- 9-10 「あの日、あのころ、あの時から。⑦」
自分の人生は自分で選択 自分の興味に素直に挑戦
吉田 円香さん
- 11-12 特集-終わりに-
- 13-14 手こぎで川下り 200km の冒険
文学部 阿部 恒幸さん 石井 哲也さん
徳武 直樹さん
- 15 ふるさとを語る日本編 その30 山梨県
「大自然に囲まれた 昔と変わらぬ富士の国」
戸泉 雄平さん
- 16 ふるさとを語る海外編 その29 ミャンマー
「様々な課題を乗り越えて 大発展を目指す国」
テーニューエーさん
- 17 高崎経済大学に入学して 赤羽 紘昌さん
- 18 第40回鶴鷹祭結果報告 平塚 諒さん
- 19-20 たかけいグラフィティ
- 21-22 新任教員紹介
- 23 写真部が行く⑩
「高崎マーチングフェスティバル」 桐井 将暢さん
- 24 体育会 no.72「自動車部」 池田 岳さん
文化サークル協議会 no.73「ギタークラブ」
茂木 聡志さん
- 25-26 たかけい INFORMATION

cafe あすなろ と その時代

あすなろを語る時、詩人、崔華國の存在を無視できません。また、崔華國を語る時、群馬交響楽団（以下、群響）を無視できません。音楽、詩、絵画に触れられるあすなろは、単なる喫茶店ではなく高崎の文化活動の拠点という役割を果たしました。

あすなろ誕生、きっかけは群響

戦後間もない1945年、戦時中に抑制された自由な音楽活動を取り戻すため、音楽の好きな数名が集まり「高崎市民オーケストラ」を編成したのが、群響誕生のきっかけです。

ところが、活動を開始したものの、その日の生活も困難な時代に音楽鑑賞など、市民にはすぐに受け入れられませんでした。それでも、試行錯誤の中で始めた県内の学校や施設を巡って演奏する「移動音楽教室」が好評を博し、徐々に市民に知られ、活動の場を広げていきました。

そして、その奮闘を描いた映画「ここに泉あり」が1955年に封切られ

ると、映画の大ヒットと共に瞬間に日本全国に群響の名（当時は群馬フィルハーモニーオーケストラ）を知らしめることになりました。映画は多くの人々の心を動かし、その中の一人に崔華國氏もいました。

崔華國氏とあすなろの25年間

映画に感銘を受けた崔氏は、その時住んでいた栃木県足利市から、次の年には高崎に移り住みました。そして2年後の1957年、芸術文化の発展を目的とした喫茶店、「名曲茶房あすなろ」をオープンしました。「郷土を美しい絵と詩と音楽で飾ろう」というキャッチフレーズのもと、コーヒーの味、食器の質、圧倒的な

レコードの数とこだわり抜いた空間は、当時の高崎ではとてもモダンな場所でした。

あすなろが開店した時の高崎は、折しも映画の大ヒットに後押しされ、群響のホームグラウンドとして、市民の文化的娯楽施設として、群馬音楽センター建設への機運が高まっているまただ中でした。崔氏も自ら多額の寄付金を市に提供し、あすなろで募金を募り、音楽センター建設のために尽力しました。

そういった事もあり、映画で、小林圭樹（群馬県高崎市出身の俳優）が演じた人物のモデルとなった、群響のマネージャー丸山勝広氏との交流を深め、1959年には群響の団員

を中心とした「生の音楽の夕べ」をあすなろで開始しました。週に1回レコードではなくプロの生演奏を喫茶店で聴けるのは高崎ではあすなろくらいだったでしょう。この催しはその後260回も続きました。また、1961年には「詩の朗読の夕べ」を開始、美術サロンを開催し店内に油彩画を展示するなど、店内を文字どおり、「美しい絵と詩と音楽」で満たしました。

あすなろには群響の団員や著名な詩人など、多くの文化人が出入りをするようになりましたが、高度経済成長の急速な時代の潮流と、採算度外視の経営、崔氏自身が詩人として活動を始めたことなどから、1982

cafeあすなろオープン

年、四半世紀の後、惜しまれながら閉店しました。

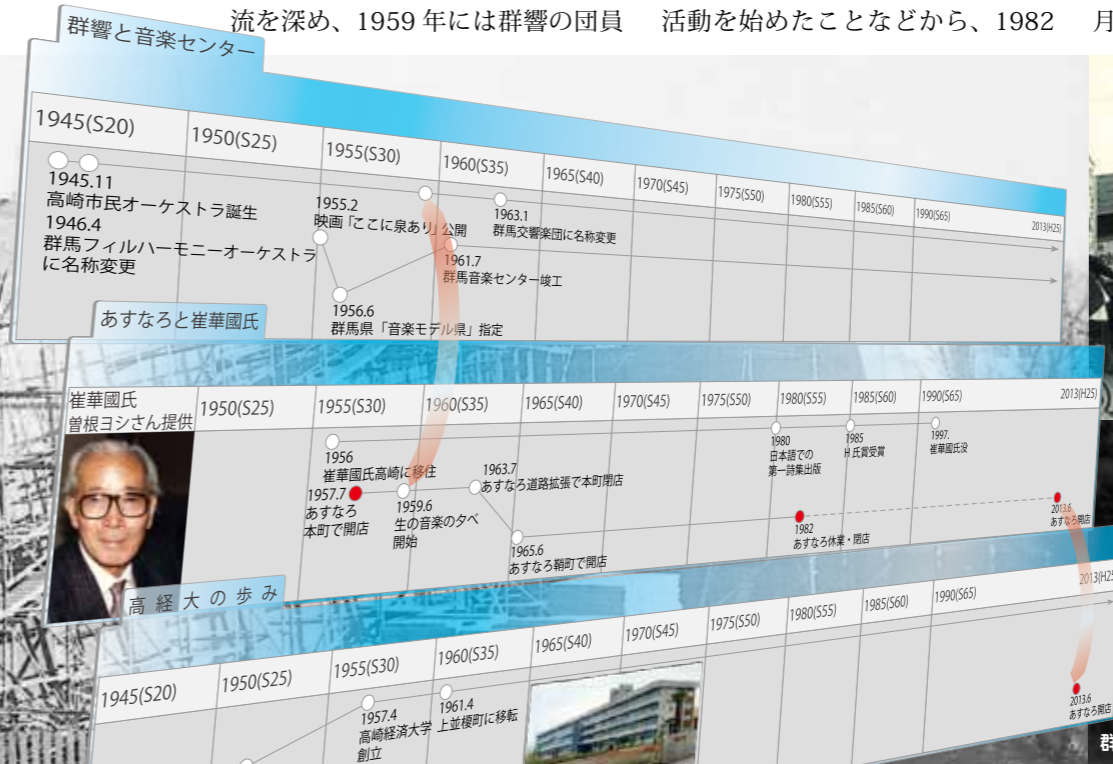
崔氏はその後、1985年に、詩壇の新人に贈られる最高賞「H氏賞」を70歳で受賞します。

高経大は高松町から上並榎町へ

高崎経済大学が開学したのは1957年、ちょうどあすなろ開店と同じ年の4月のことです。当時は現在のシティギャラリー付近に学舎がありました。開学まもなくすぐ隣りで音楽センターの建設が始まったこととなります。現在のキャンパスに移転したのは1961年4月、音楽センターが完成したのはその7月のことでした。



建設中の群馬音楽センター：高崎市提供



本町にあったあすなろ
道路拡幅により群響町に移転：歴史民俗資料館提供



群響メンバーによる生の音楽の夕べ：歴史民俗資料館提供

情熱家、崔華國

INTERVIEW



詩人 曾根 ヨシさん

生の音楽の夕べを開き、月刊であすなろ報を出していたあすなろ企画室に、崔さんに呼ばれて就職したのは1960年頃です。一時、結婚して辞めていましたが、復帰後は閉店時まで携わりました。

崔さんは在日韓国人でした。戦中、戦後とたいへん苦労を重ねたようですが、「日本を恨んでも何も生まれない、詩や音楽など文化の交流の場をつくって喜びを分かち合おう。」と

いう願いからあすなろを始めたようです。そして、実業家だった実弟が、「これからはあなたの夢の城を作ってあげるから存分に遊んでください。」と、あすなろの経営を援助しました。

崔さんという人は感情が激しく、大変な情熱家でした。あすなろには崔さんの情熱と純粋な気持ちに共感する様々な詩人、文化人が見えました。最も親しかったのは群響マネージャーの丸山さんで、夕方になると

自分が好きな詩人を呼び、講演や朗読をしてもらい、討論をすることで、じかに詩の勉強をできたようです。日本を代表する詩人を多く呼んだ来たわけですから。後に、「あすなろは私の大学でした。」と語っていました。私もあすなろで働きながら様々な詩を聴き、中央の詩人と話しをする中で詩集を出し、H氏賞候補に選ばれたりもしました。私にとってもあすなろは勉強の場でした。

あすなろの頃の崔さんはまだ詩人では無かったのですが、すでに詩を書いていた私に、「経理の仕事は後でいいから私と詩の話をしよう」と私を誘い、よく詩の話をしました。

あすなろの最後はアルバイトに高経大の学生がいました。高経大の学生が新たなあすなろをつくることに何かの縁を感じます。今のスタッフのみなさんは、崔さんが求めた従業員像そのままです。清潔で品があって教養がある。とっても期待していません。経営者としての崔さんは真似をせず、お客様を大事にする気持ちと文化を育てる場づくりを引き継いでもらいたいと思います。

cafeあすなろオープン



プロオープン、グラントオープンと、あすなる街は盛大に祝福されました。

(司) 様々なアーティストを呼んでいますが、どのように交渉しているのですか。

(小) 知り合いを通して交渉しています。企画はまず行動に移してから。理由は後付けです。できるだけ皆のやりたいことができるよう理由を考えることも、学生にとっての成長の場になっていると思います。

(田) 経営班は、市に提出する書類を作っていますが、間違いがあると困るし、書類の提出が遅れてはいけませんので、毎月徹夜をして正確な書類を作っています。時間帯や男女比など、細かいデータもまとめて提出しています。

(芹) 今後は、まとめたデータを提出するだけでなく、自分たちで分析して戦略を考えるとところまでしなければなりません。そのためには、算数もマーケティングもリサーチも大切だということを感じました。今は、皆に必要な知識を学ぶ場を設けたいと考えています。

(司) 本当に社会に出て役に立つ実践的な勉強をしていますね。今回の新メニューやネーミング、アイデアなどはどのようにして決めましたか。値段設定も難しそうですね。

(全員) 難しいです。

活動する体育会や、課題が言い渡されるゼミなどとはまた違い、自分たちでゴールを設定しそれに向かっていく組織です。でも、そのような活動になれていない学生が多いので、その意識の統一が大変です。

(司) スタッフの出入りは頻繁ですか。

(鈴) 入りはないですが、夏休みを機に退く人もいます。

(小) 自分がやりたかった活動と違うと、やめていくのだと思います。

(芹) 目の前にやらなければいけないことがあるので、スタッフがやりたいと思っていたことはまだこの先にあると思います。そういったことをスタッフに伝えるのもリーダーである私たちの役目だと思います。

(司) 3か月運営してみてどう感じますか。

(芹) かつてのあすなるを知るお客様がほとんどですね。

(小) まずは高経大生にもっと来てもらえるようにしたいです。

(司) 他店舗やイベントのフライヤー(チラシ)が結構置いてありますね。

(芹) かなり置いてほしいという依頼がきます。今後は受け入れるだけではなく、こちらから置きたいフライヤーを依頼したり、フライヤーもただ置くだけではなく、項目ごとに分けるなど意味を持たせる工夫をしたり、アンテナショップとしての機能を充実させたいです。現在はそこまで手が回っていませんが。あと、運営会議や運営委員会など、主体が様々で、やりたい企画も意思決定までに時間が掛かるのも難点です。

(司) 組織での意思決定の勉強にもなっていますね。

(芹) 公共機関の一端でありながら、やっていることは民間。民間並みのスピードで意思決定したいのですが、新メニューのトーストを出すのに3か月かかってしまいました。

市の意向による急遽開催のイベントもあったので、その調整が大変でした。グラントオープンは一般のお客様も入るので、経営班との協力が欠かせなかったし、企画班のみでなく全体をみて計画を立てる必要があったので、その調整も大変でした。式典の司会マニュアルや行程表も作らなければなりません。

(司) グラントオープン当日も各スタッフにいろいろ声掛けをしていましたね。

(小) グラントオープンは様々なお客様に来ていただきたかったので、クラシックだけでなく、群馬で人気のロックバンドを呼びました。それぞれの企画にはコンセプトがありますが、学生部会全体のコンセプト、「学生の成長の場、文化発信の場、地域振興の場」を活かしていけるようなイベントを考えています。

(鈴) 広報班は、紙媒体を作ったり、HP、SNSを作る仕事や、ブログの統括もしています。当初は企画班・経営班しか無く、広報はオープンまで1人で行っていました。現在は1年生も含めて4人。人数が少なく大変さを感じることもありました。あすなる学生部会は、試合に向けて



あすなる学生部会のリーダーのみなさん



芹澤一樹さん
経済学部3年
学生部会リーダー



田口晃弘さん
経済学部2年
経営班リーダー



小島光昭さん
経済学部3年
企画班リーダー



鈴木隆宏さん
経済学部3年
広報班リーダー

とも多かったと思います。4月に入りやっとスタッフが揃うようになると、1年生スタッフの募集説明会などが続き、オープンに向けて実際に動き始めたのは5月に入ってからです。実質オープンまで1か月、駆け足で準備を進めました。経営班はメニュー作り、値段設定、取引先の選定などをしますが、値段1つにしても、近隣店舗を調査したうえで何度も改良を重ねました。

(司) スタッフが募集されてからとても慌ただしい6か月間でしたね。先日もトーストのメニューが加わったり、オープンしてからもどんどん改良がされていますね。

(田) これからも新メニューを加えていきたいです。

(司) スタッフがたくさんいると、情報共有や意識統一が大変ですね。

(芹) 正直、それが一番難しいことだと思います。上手く回らない部分が出てくる原因の根本でもあるので、それをいかにしてクリアするかということをやとって考えて、リーダーは皆、苦労しています。

(小) グラントオープン、プレオープンに向けてそれぞれ班を作り、深夜2~3時まで会議を重ねました。自分たちで決めたことだけでなく、

(小島企画班リーダー：以下小) もともとカフェめぐりが好きだったので、楽しいことをやりたいと思っていました。ホームページであすなるのを見て、思いっきりやりたくてリーダーになりました。

(鈴木広報班リーダー：以下鈴) 販売甲子園や久宗ゼミで活動をし、それを通して地域活性化活動に興味がありました。いち早く準備委員会という形でいくつかの団体が招集された時のメンバーに含まれていて、その縁で入りました。

(司) コーヒーの入れ方や接客などはどのように身に着きましたか

(芹) 各自で調べたものを持ち寄ってマニュアルを作り、模擬接客を何度か行いました。その後は、実際の現場の中で身につけました。

(田) コーヒーの入れ方は、大和屋さんで店長やチーフが習い、各スタッフへ教え、身につけました。

(司) 開店まで、苦労したことや大変だったことはありますか。

(芹) 初対面だったスタッフ同士の交流、あすなるについての理解を深める機会を多く作るようにしました。オープン後の店舗経営について自分たちなりに検討しましたが、ほとんどはオープンイベントや式典の準備に追われ、それがゴールになってしまいました。スタートはしたけれど、事前に考えていた店舗経営については細部まで検討が行き届いていなかったと感じながら、あっという間に3か月が経ちました。

(田) あすなる学生部会が活動し始めたのが春休みに入ってからだったので、毎週の会議などに全員が集まることができず、情報や意識の共有が困難でした。連絡にSNSも利用しましたが、行き届かないこ

学生リーダー座談会

新しいあすなるは、店長、副店長のほか、学生を統括する学生部会リーダーと、企画、経営、広報のリーダーの4人の学生が中心となって運営しています。この4人に、オープンから3か月までのあすなるについて、いろいろと語っていただきました。

(司会：以下司) あすなるに関わるきっかけを教えてください。

(芹澤学生部会リーダー：以下芹) 新しいことに挑戦したいと思っていて時にあすなるの話を聞きました。意識の高い人、様々な価値観の人と会うことで自分自身のスキルアップを図りたいと思っています。

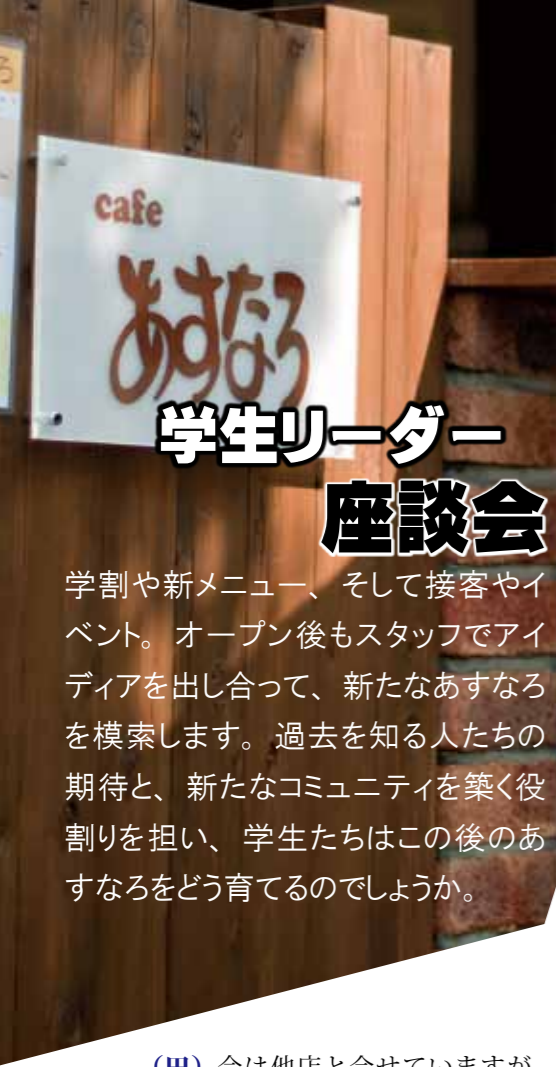
(田口経営班リーダー：以下田) 大学生のうちに「なにか」を始めたいと思っていましたが、一人で始めるには勉強が必要と感じていました。そんなときにあすなるのを知り、ここで経営のことを学びたいと思いました。



4月に入ってすぐに行われた第1回あすなる学生部会。この後、毎週のように打ち合わせを続け、オープンに迎えました。



プロによるコーヒーの入れ方講習会のもよう。



学生リーダー座談会

学割や新メニュー、そして接客やイベント。オープン後もスタッフでアイデアを出し合って、新たなあすなろを模索します。過去を知る人たちの期待と、新たなコミュニティを築く役割を担い、学生たちはこの後のあすなろをどう育てるのでしょうか。

(III) 今は他店と合せていますが、学割を使うと安くなります。
(小) 学割を知っている学生は少ないですね。それはもっと広報しなければいけないと思います。
(司) 今回始まったトースト(「ジョジョのシナモンシュガートーストセット」「教授のジャムトーストセット」)はネーミングが面白いですね。
(III) やはり気になりますよね。こ



スタッフでアイデアを出し合いながら少しずつメニューを増やしたり、面白い企画を考えています。

cafeあすなろオープン

れは、このメニューを提案したメンバーのニックネームなんです。
(司) ジャムも手作りですね。
(III) 開店前から軽食は出したかったのですが、40人のスタッフが同じ味を出すのは難しかったです。
(司) 今はだれが作っても同じように提供できるのですか。
(III) そうです。マニュアルをとにかくシンプルなものにしました。ジャムも誰でもつくれます。他から仕入れるより自分たちで作ることで手作り感もあり、コストも抑えて提供できるので、一石二鳥です。
(司) なるほど。パンもこだわって仕入れているのですか。
(III) 地域活性化も含めて近隣のお店から買うようにしています。お客様に仕入れ先を聞かれると勧めることもできるので、どんどん繋がりができると良いと考えています。
(司) お客様とスタッフが話している場面をよく見ますが、接客で心がけていることはありますか。
(小) コミュニティカフェとして、お客様と仲良くなりたいと思っています。
(芹) 話しかけることを心がけていますし、スタッフは名札を付けて、名札には自己紹介を書くようにしています。そのようなきっかけがあると話しやすくなると思います。
(司) 会話などをした中で、印象に残っていることはありますか
(小) 昔のあすなろについて語りたという方が多いので、学生スタッフもかつてのあすなろについて知らなければいけないと感じ、勉強会なども行いました。音楽イベントの際には、お客様の中から今度イベントをやらせてもらいたいという話を頂く事もあります。
(鈴) 場所も一緒なので愛着を持っている方が多いようです。
(芹) “昔とレイアウトが違う”とい

う方もいます。
(司) かつてのあすなろのことも勉強したんですね。開店のきっかけ、「ここに泉あり」は観ましたか。
(全員) 見てないです。見てみたいです。
(小) そのイベントしたら面白そう。
(司) 崔さんについてはどうですか。
(鈴) 経営者というより、文化人という方が強かったように感じます。崔さんの人柄、オーラに惹かれて来ていた人も多いと聞いています。今のあすなろにその雰囲気を出すのは難しいと感じますし、利益よりも文化を優先というのも難しい。
(芹) 崔さんは各地から詩人を集めるなど、企画者としての能力が高かったと聞いています。新しいものを提供し、それに人が集まっていた。私たちも、私たちができる「なにか」を見出して新しい風を吹かせていきたい。そういった意味では崔さんを見習いながらやっていきたいです。



年配の来客者とは昔のあすなろの話題で盛り上がる人が多いそうです。

(司) 高経大生にもっと利用してもらえると良いですね。
(芹) 今はゼミの発表に使ってもらうことくらいですが、そこから徐々



店内に流れるのはこのレコードの音楽。今ではあまり聴くことができない、味わいのある音があります。



座談会はあすなろで行いました。リーダーの面々と司会の教育グループ職員。落ち着いた雰囲気は打ち合わせなどの場所にも適しています。

に浸透して広がっていくとうれしいです。
(小) 音楽イベントなどには友人を誘って高経大生も来てくれますが、普段は少ないですし、知り合いがいないと来てくれません。



壁面は展示スペースになっており、絵画などの作品を企画展示しています。

(司) あすなろ復活に期待している人はとても多いようです。このあすなろをどのように育てたいですか。
(芹) もっとたくさんの人に来てほしい。そのためにはあすなろ独自の色を出していかなければなりません。アンテナショップとして、高崎市市内の商品、情報を発信していくことが、他店との差別化でもあり、地域に根差すあすなろになると思います。また、あすなろが良くなるには、構成するスタッフがよくなるのが欠かせません。あと2か月ほどの間で自分たちの思いを後輩たちに伝え、後輩たちは自分たちに足りないものを見つけ、勉強し、実行してもらいたい。学生としての生活がある中でのあすなろの活動はとても大変です。でも、この活動の意味を後輩たちに伝えたい。欲張りなほどやり

cafeあすなろオープン



たいことは沢山あります。
(III) 自分たちが卒業した後、高崎に戻ってきたときに、まだあすなろがここあって、今より高崎の人に愛されていて、毎日人があふれている場所になっていたらいいなと思います。そのために自分たちは今、地盤を固めて次の世代がより良い環境で活動できるようにしたいです。
(小) HPにも載っている、鈴木が考えた「そのきっかけはあすなろで」が好きです。人と人の出会いのきっかけ、何かを始めるきっかけ、そんなきっかけの場になると良い。“サードプレイス”(ファーストプレイス=家、セカンドプレイス=学校・会社、それとは別に自分にとって居心地の良い場所)になってほしい。
(鈴) 他のお店とは違い、高崎市が元となって運営されているこのあすなろには、図書館、シティギャラリーに並ぶパブリックな場所になって欲しいです。組織的にはまだ1年も経っていないので不安定な部分もありますが、徐々に固めていけたら良いと思います。
(司) 進学や卒業などでスタッフが交代しますが、開店メンバーである自分たちの意識をどのように繋げていきたいですか。
(芹) 言葉で伝えるには限りがあります。形として残せば継承されると思うので、組織の体制などで残したいです。最低限ですが、中心メンバーには気持ちも伝えていきたい。
(III) 口だけではなく、行動として気持ちを伝えていきたいです。リーダーに求められるものは人の意識を変えられること。まずは自分が動けばそれについてくる後輩がでてくると思うので、それを信じて動いていこうと思います。
(小) そのとおり。
(鈴) 思いは発起人が一番強いと思うので、あすなろの発起人である

市長に、思いをスタッフに伝える場を設けてほしいです。
(司) 自分たちが卒業した後のあすなろに期待することはありますか
(小) 失敗しても許されるのは学生のうちだけ。難しいことがあると途中であきらめる人も多いのですが、挑戦心をもっと持って、新しいことをしたほうが良いと思います。
(芹) 学生だと許されることもありますが、それに甘えすぎてもいけない。攻め、守りの判断をしていく必要があります。
(小) やりたい企画を持ってくる人は多いのですが、話を進める中で少しでも難所があるとすぐに諦めてしまう。もっともっと挑戦してほしいです。
(鈴) プロ意識を持ってやってほしい。そうすれば深い学びに繋がると思います。

(2013年9月某日あすなろにて)

INTERVIEW

あすなろに
客していた
金子さんと山
口さん
(相生町)



広報高崎で高経大生が運営するあすなろができるという記事を見て、来てみたいと思っていました。あすなろは、40年前、本町にある時代から知っています。以前は山登りやスキーの帰りなどによく利用していました。新しいあすなろの雰囲気もとても良いと思います。前の方がもっとライトが暗い感じでした。駅前以外はだんだん喫茶店が無くなってきて、気軽に入って休める場所ができてうれしいです。これからも友達同士連れだって、散歩方々利用したいと思います。



2005

学生時代は関根ゼミに所属



2009

シドニーへ短期留学



2009

「日中友好桜と緑のプロジェクト」に参加



2013

H25年6月オープン cafe あすなるで店長を務める

「あの日、あのころ、 あの時がら。」

自分の人生は自分で選択 自分の興味に素直に挑戦

今回の卒業生は

吉田 円香

さん
です。

二〇〇七年度卒業、48期経済学部吉田さんは、今年の6月から営業を開始した cafe あすなるの店長です。学生時代は本心に普通の生活を送っていたという吉田さんですが、卒業後、就職、ボランティア、留学など、様々な体験をされ、その体験ひとつひとつが、あすなる店長就任に通じる出来事だったそうです。今回はそんな吉田さんに、学生時代の思い出や、卒業後からあすなるの店長に就任するまでの体験と、在学生へ送るメッセージを語っていただきました。

普通では味わえないことをあすなるで 自分らしく進みたい

恩師からの紹介で、高経生と運営する「cafe あすなる」の店長に就任することになりました。現役の学生を中心にNPO 法人をつくり、まちの活性化や学生の成長などをコンセプトに活動しています。

あすなるを通じて様々な人と出会い・経験を積むことは、学生たちにとって大きな財産になると思います。私もまた、普通の会社では経験できない刺激をもらっています。初めてのことで私に務まるのか不安でしたが、お客様や地域の人々、学生たちの存在に助けられながら、自分らしく進んでいきたいと思っています。

海外での活動や留学を経て抱いた お茶への興味と新しい夢

タウン情報誌の会社で仕事の厳しさややりがいを学び、次のステップへ進もうと考えていた時、友人の誘いで「日中友好桜と緑のプロジェクト」に参加しました。中国の蔣家村へ桜の植樹をする活動です。同年、シドニーへの短期留学も実現。そのときの経験や出会った人達との交流は、今の私にとって必要不可欠な存在となりました。帰国し、お茶に興味を持った私は「世界のお茶専門店」へ入店。お茶全般の幅広い知識を学びました。“いつかは自分で店をやってみよう”という夢を持つようになっていました。

いまの私を作り上げた 高経大での出会いと経験

高崎経済大学では旅行研究会に入り、友人と旅行したり、バーベキューをしたり、ごく普通の学生生活をマイペースに送っていました。

そんな私に刺激を与えたのは、経営戦略などを学ぶ関根雅則先生のゼミ活動でした。先輩や同期は個性豊かな人々でした。ゼミのメンバーと過ごした経験が、社会に出て「自分の人生は自分で選択する」という意識を持つきっかけになったように思います。高崎経済大学での様々な出会い・経験が、今の私の土台になっています。

在学生のみなさんへ

人生何が起こるか分からないものです。学生時代をマイペースに過ごしていた私も、今はたくさんの方が関わる店の店長。自分の興味に素直に耳を傾けてきたことが、新たな道を開いてきたように思います。新しい環境に飛び込むのはとても勇気がいります。しかし、やらないで後悔するより、やって後悔した方が100倍よいと思うのです。「経験」は自分の財産です。思い切り失敗できる今だからこそ、チャレンジしてほしいと思います。高経にはやる気があれば、それが実現できる機会がたくさんあります。海外にいきたい、まちなかを元気にしたい、農業をやりたい、何でもよいと思います。ぜひ、自分の興味に飛び込んでみてください。



2005

2013

- 1984 高崎市で生まれる。
- 2003 高崎経済大学に入学。経営戦略に興味を持ち、関根雅則先生のゼミで勉強する。
- 2007 新卒でパブリッシュ出版へ入社。地元のタウン情報誌の企画・営業を担当。
- 2009 日中友好桜と緑のプロジェクトに参加。同年、シドニーへ短期留学をする。
- 2009 お茶に興味を持ち世界のお茶専門店に入店。いつか自分の店を開きたいと考える。
- 2013 恩師からの紹介により、高経大の学生と運営するcafe あすなるの店長に就任。



cafeあすなろオープン



詩、音楽、絵画などの芸術文化、コーヒーをはじめ個人的趣味性の高い嗜好品は、世情不安や景気の低迷など、切迫や緊迫した環境では時に不必要なものとして扱われます。衣食住のように必ずしも生活に密接でなく、心や気持ちの充足を満たせる環境があり、人々が鑑賞したり時間を費やしたりする余裕がなくてはならない、いわば心の豊かさの象徴です。

長く戦争の時代を過ごした日本では、敗戦後の何も無い状況にも関わらず、抑圧されて枯渇した心のゆとりを取り戻そうと、芸術や嗜好品を求

めた人々が多くいました。“あすなろ”の存在はまさにその具現化といえます。

旧あすなろの開店した1957年から、東京タワーが翌年に竣工し、4年後に音楽センターが完成、7年後に東京オリンピック開催など、日本の景気が徐々に上昇し活気づき始め、人々の気持ちにも徐々にゆとりが生まれてきた時期でした。現在は、昨年東京スカイツリー竣工、7年後に2度目の東京オリンピック開催が決定。高崎では音楽センターに変わる新たな音楽ホールの建設計画が進行中。どことなく時代背景が似てい

るようです。この時期に新たなあすなろが開店したのは単なる偶然でしょうか。長く景気が低迷した時代には求められなかった、心の豊さを感じる場所が、今再び求められつつあるのかもしれませんが。

そして、昔のあすなろを知る人は新しい若い力に期待をし、学生たちは昔を学びその精神を知り、あらたなあすなろを築こうとしています。コーヒーカップの“あすなろ”のロゴと共に、半世紀の時代を超え、お互いの思いが繋がりました。cafe あすなろの歴史は、学生と地域の皆様と共にこれから綴られます。

cafeあすなろオープン

ーそのきっかけを“あすなろ”でー

cafe あすなろ

営業時間 12:00-21:00 (月曜定休)
<http://cafe-asunaro.com/>
 TEL&FAX: 027-384-2386
 住所: 〒370-0827 群馬県高崎市鞆町73

Menu

- ※学生は全品100円引き
- Drink**
- あすなろブレンド珈琲 (ホット・アイス) ¥350
 - 紅茶 (ホット・アイス) ¥350
 - ソフトドリンク (オレンジ・アップル) ¥300
 - フレッシュジュース (ブルーベリー・パイナップル・マンゴー) ¥450
- Dessert**
- ショコラケーキ ¥350
 - チーズケーキ ¥350
 - お茶菓子 (ドライフルーツ・クッキー) ¥300
- Set**
- ケーキセット (ドリンク+ケーキ) ¥600
 - お茶菓子セット (ドリンク+お茶菓子) ¥500
 - 教授のジャムトーストセット ¥500
 - ジョジョのシナモンシュガートーストセット ¥550



教授のジャムトーストセット

高崎産のブルーベリーを使用した手作りジャムは、あすなろ特製です。



ジョジョのシナモンシュガートーストセット

砂糖はミネラルをたっぷり含んだ「洗双糖」を使用。濃厚なバニラアイスと共に。

Event

店舗をイベント用に貸し出しています。イベント利用についてはHPメニュー「EVENT」から『cafe あすなろ施設利用規定』をご一読のうえ、同ページ『cafe あすなろ施設利用申請書』をご利用の45日前までに店舗持参かFAXで送付ください。施設使用料金は下記表のとおりです。

イベント使用時間	注文内容
2時間以内	1オーダー/人
2時間超	2オーダー/人



勉学、部活動、趣味、etc. 本学に集う学生でも、多種多様な生活があります。その中で、気合いを入れて頑張る学生達の一端をレポートし、あなたの学生生活にスパイスを与えるためのコーナーが、この「学生クローズアップ」。今回は、今年7月に手漕ぎボートで高崎～銚子間約200kmの川下りに挑戦したという文学部の3人をピックアップ。旅を終え、こんがり目焼けをした阿部さんにお話を伺います。



手こぎで川下り 200km の冒険



まだ川を甘く見ていた序盤

川が浅く流れがないときはボートを手で押しながら進んだ



ボートを貸してくれたボート店店主と



文学部
経済学部経営学科3年
阿部 恒幸さん

地域政策学部地域づくり学科3年
徳武 直樹さん

経済学部経済学科3年
石井 哲也さん



- 1日目 6:15 環状大橋～19:30 上武大付近 (20km)
1日目にしてまさかの転覆
- 2日目 5:15 上武大付近～19:00 利根大堰直前 (34km)
ボートが破損
利根川最大の難所利根大堰を運よく回避
- 3日目 5:00 ボート店～19:30 茨城県境町 (36km)
ゴムボートを無料で借りて再出発
- 4日目 3:30 茨城県境町～21:30 若草大橋 (51km)
予想以上の遅れに焦り長時間漕ぎ続ける
- 5日目 3:00 若草大橋～19:18 銚子大橋 (65km)
向かい風と上潮によりなかなか進まず
銚子大橋を見たときには感動で涙する

三人が利根川に立ち向った瞬間

文学部の活動はいつも些細なことから始まります。今回は図書館にあった新聞記事がきっかけでした。記事にあった冒険記には、50年前に経大生が手漕ぎボートで利根川を銚子港まで下ったことが書かれていました。「この本をきっかけに学生の元気を取り戻してほしい」ともありましたが、OB達もまさか踏襲されるとは思っていなかったのではないのでしょうか。しかし数々の奇行を成し遂げ、人々に笑いと元気を提供してきた文学部にとっては次なる活動が決まった瞬間でした。翌日には早速部員の誰かが購入したのである

うゴムボートが宅配されました。

思いついたら立ち止まらない

これが文学部の特長です。現在、経大と県女の学生10名が所属する文学部は、一見困難なことにでも若さと勢いで果敢に挑みます。今回も活動決定から僅かな期間での出航となりました。当初川下りを甘く見ていた我々の相棒は8000円のゴムボートとプラスチックのオール。旅の始まりは川の水位が低く、5時間ボートを押すというものでした。その後も行く手を阻む1mの堰の横断や人工物から発生したスクリューでの転覆、河川敷での寝袋野宿など危険と隣り合わせのことばかりでし

た。途中からの川上りとも言える海からの向い波にも酷く体力を奪われました。しかしゴムボートのパンクを契機に“出会い”を呼びこみ、ボート店主から無償でメーカーのゴムボートを貸して頂き、利根川の情報提供や飲食の差し入れを貰うなど航中では辛さ以上に人々のぬくもりを感じ、それらに救われゴールに辿りつきました。

実稼働時間一日平均16時間、総計5日間の旅。目の前のことに全力で挑んだこの冒険。文学部の挑戦はこれからもまだまだ続きます。



ふるさとを語る

日本編 その30

山梨県山梨市 「大自然に囲まれた 昔と変わらぬ富士の国」

**ぶどう、桃、鳥もつ煮だけじゃない
方言も日本一？！**

北は八ヶ岳、西は南アルプス、南は富士山と、2000mを超す山々に囲まれた、別名「フルーツ王国」と呼ばれる山梨県の甲府盆地北東部に私が生まれ育った山梨市があります。山梨の特産といえば、私の実家でも作っているぶどうと桃！収穫量はどちらも日本一です。最近では、B-1グランプリで優勝した鳥もつ煮も有名です。

また、山梨には甲州弁という方言があります。ある番組では日本一ブサイクな方言として紹介されていましたが、そんなことはありません！

**部屋から見ていた馴染みの山が 今や
世界の宝物**

山梨はとにかく自然豊かです。山の代表は富士山、湖は富士五湖、渓谷は昇仙峡など。とりあえず海以外なら何でもあります！

小さい頃は山梨の大自然の中で、のびのびと遊んでいました。夏は川で泳ぎ、冬はスキーをし、常に自然に囲まれていました。最近では富士山が世界遺産に登録され、毎日自分の部屋から眺めていた山が世界遺産になったことを誇りに思います。いつかは登頂したい山でもあります。ますます活気づく富士の国山梨。これからの発展が楽しみです。

**故郷を離れて実感した 自分にとって
不可欠なもの**

山梨と群馬は周囲を山に囲まれ、自然豊かであるという点から非常に似ていると感じます。幼い頃から大自然に囲まれて育ってきた私にとって、自然は不可欠であるということを経験して、群馬に来てから改めて感じました。

いま、山梨県は富士山の世界遺産登録や、リニアモーターカーの開通など、徐々に県の顔が変わりつつあります。そんな中でも、いつも帰省すれば大自然に囲まれた風景、雪で覆われた霊峰富士、おいしい実をつけたたくさんの果樹園が、昔と変わらぬ、すばらしい故郷の魅力を私に実感させてくれます。



左：2013年6月に関連する文化財群とともに世界文化遺産登録された「富士山」。標高3,776mで日本最高峰の独立峰。
右上：山梨県の富士吉田市や郡内地方の郷土料理である「吉田のうどん」。硬くてコシが強い麺が特徴。 右下：天然記念物に指定されている「鳴沢氷穴」。総延長156m、幅1.5～11m、高さ1～3.6mの溶岩窟。



ふるさとを語る

海外編 その29

ミャンマー 「様々な課題を乗り越えて 大発展を目指す国」

**それぞれの文化を守りつつ 135もの
民族が共生している「仏教の国」**

私が育ったのは、東南アジアの国、ミャンマーです。ミャンマーは、タイ、中国、インド、ラオス、バンラデシュなどと国境を接しています。135の少数民族と一緒に住んでいる多民族国家で、6000万人以上の人口の中でビルマ族が7割近くを占め、他にカレン族、カチン族、シャン族、モン族など様々な民族が独自の文化を守りながら一緒に生活しています。

また、ミャンマーは、仏教の国と言われるとおり、国民の9割は仏教徒です。キリスト教やヒンドゥー教やイスラム教なども主な宗教として信仰されていますが、やはり特に仏教思想は強く、仏塔が国のいたるところに見られます。

**旧首都ヤンゴンに代わり建設された
新首都「ネピドー」**

ミャンマーの首都は2006年3月にヤンゴン市からネピドー市へ移転しました。ネピドー市は、ミャンマー連邦議会や省庁や政府機関が集まっている市で、私が住んでいた旧首都のヤンゴンとは全く違います。ヤンゴンには、企業や教育的、健康的、娯楽的な施設が圧倒的に多く集まっています。

また、ミャンマーは自然に恵まれている国であり、主に農業が栄えています。米をはじめ農産物がたくさん取れます。ミャンマーの代表的な食べ物はモヒンガーという料理です。魚のだしに米と豆の粉末、バナナの茎やゆで卵を入れ、そうめんに似た米麺と一緒に食べる麺料理です。甘くて少し辛い味です。

**あらゆる分野で躍進するミャンマーに
他国も大注目**

1988年から2012年まで軍事政権をしていたミャンマーですが、現在は民主化されて、民主政治への移行を行っています。様々な分野でポジティブな変化を実施して、これからの大発展を目指しています。日本を含め、外国の企業はミャンマーにビジネス進出するため、関心を持って企画を立てています。

これからの発展は政府にとってはチャレンジで国民にとっては楽しみとなっています。ミャンマーの現状は若者の失業問題、産業インフラの未整備、電力不足など様々な課題が出ていますが、それらに対する対策をどのように取るかは重要なこととなっています。私はこれからのミャンマーの発展を本当に楽しみにしています。



左：旧首都ヤンゴンの中心部にある寺院「シュエダゴン・パゴダ」。右上：ミャンマーの代表的な料理「モヒンガー」。スープがかかった押し出しの米麺。右下：新首都ネピドーに2010年建設された国会議事堂。敷地面積は東京ドーム約70個分。





夢を持って高経に
新たな興味も湧いてきた

経済学部 1年
赤羽 紘昌 さん

入学式

高崎経済大学に入学して

慣れ親しんだ地元を離れて、新しい土地での独り暮らしは自分が想像していた以上に苦労しました。さらに、高校までの授業とは違う専門性の高い90分の講義も最初のうちは大変でした。でも生活のリズムができてくると、徐々に大学生活にも慣れ、必修授業や部活動で仲の良い友人を作るなど、充実した毎日を送ってきました。なので、入学してからのこの4カ月間は、時間の流れがとても速かったような気がします。

私は経済学部部に所属し、今まで以上に政治・経済の話題について関心を持つようになりました。今では自分なりの考えを持つようになり、国際社会にも興味を持ち始めました。

私は叶えたい夢があって高経を選びました。大学生になって自らの意思で選択する機会や自由な時間が増える中で、社会の一員だという責任のある行動が大切だと実感しています。私はこの緊張感を忘れず、そして、夢を実現するために充実した学生生活を過ごしたいです。

平成 25 年度 学部入学状況

入学区分	経済学部 (定員 480 人)		地域政策学部 (定員 455 人)		合計 (定員 935 人)	
	一般 380 人	推薦 100 人	一般 300 人	推薦 95 人		
一般 (推薦含む)	494	(130)	438	(151)	932	(281)
私費外国人留学生	5	(2)	22	(13)	27	(15)
社会人	0	(0)	2	(0)	2	(0)
帰国生徒	0	(0)	0	(0)	0	(0)
2 年次編入・転入	1	(1)	10	(6)	11	(7)
3 年次編入・転入	0	(0)	20	(14)	20	(14)
計	500	(133)	492	(184)	992	(317)

平成 25 年度 大学院入学状況

入学区分	経済・経営研究科 (定員 24 人)				地域政策研究科 (定員 25 人)	合計 (定員 49 人)
	現代社会経済システム専攻		現代経営ビジネス専攻			
博士前期課程 第 1 期・秋季日程	1	(0)	2	(0)	3	(0)
第 2 期・春季日程	2	(2)	0	(0)	9	(6)
博士後期課程	1	(0)	1	(1)	2	(1)
計	6	(2)	13	(7)	19	(9)

() 内は女子で内数

鶴鷹祭

第 40 回鶴鷹祭結果報告

高経大の選手団が歓喜に満ちあふれた瞬間だった。高経大、都留文科大共に勝ち星が6で迎えたサッカー部の試合だ。PK 戦までもつれ込んだ接戦を見事に制したのだ。高経大は1日目を7-6で勝ち越し、最高の形で2日目に繋げた。

「2日目は鷹が強い」というジンクスが鶴鷹祭にはあり、これに則り2日目を戦えば高経大の完全勝利は目前だと信じていた。しかし、鶴鷹祭は甘くない。ジンクス通りには進まず2日目も非常に拮抗した戦いになり、都留文科大に苦しめられた。結果、もうひと踏ん張りが必要で11-12で総合優勝を逃してしまった。正直悔しかったが、それでも鷹の精鋭達は最後まで諦めずに戦ってくれた。この悔しさをばねに来年は王座奪還を狙う。

初日の勝利も束の間
逆転負けを喫す

第四七期体育会本部代表幹事
地域政策学部 4年
平塚 諒さん

第 40 回 勝敗結果

種目	性別	高経大	都留大	MVP	敢闘賞
空手		○ 2	● 0	山上晴生 (高)	小出泰規 (都)
サッカー		○ 1 (PK 5)	● 1 (PK 4)	青木寛樹 (高)	村田祐樹 (都)
剣道	男	● 3	○ 3 (内容勝ち)	山田大輝 (都)	林吉昭 (高)
	女	● 1	○ 4	鷹野実加 (都)	粕田美咲 (高)
柔道		○ 2	● 0	小平翔太 (高)	吉田章朗 (都)
ソフトテニス	男	● 2	○ 3	有川優大 (都)	柳澤明宏 (高)
	女	● 0	○ 3	橋田笑美 (都)	栃木愛美 (高)
ソフトボール		○ 8	● 7	青沼良介 (高)	土屋勇貴 (都)
バスケットボール	男	● 71	○ 75	山坂光司 (都)	須藤寿紀 (高)
	女	○ 70	● 61	今田美緒 (高)	仲地星夜 (都)
バレーボール	男	● 1	○ 2	高木陽一朗 (都)	種池大樹 (高)
	女	● 0	○ 2	新井友子 (都)	亀井優花 (高)
ラグビー		○ 7	● 0	松村祐太 (高)	近藤圭 (都)
陸上		● 22	○ 48	大房秋臣 (都)	一木悠太 (高)
弓道		● 85	○ 87	片岡悠希 (都)	小小木大吾 (高)
硬式テニス	男	○ 9	● 0	下村拓実 (高)	磯野一樹 (都)
	女	● 0	○ 6	石野萌実 (都)	佐藤玲 (高)
準硬式野球部		● 1	○ 5	竹折耕介 (都)	栗原悠輔 (高)
卓球部	男	○ 4	● 3	斎藤建佑 (高)	櫻井勇輝 (都)
	女	○ 3	● 2	佐藤美果 (高)	斎藤志穂 (都)
バドミントン	男	● 1	○ 4	村田哲也 (都)	斎藤直希 (高)
	女	○ 3	● 2	林千晶 (高)	渡辺由美 (都)
ハンドボール		○ 34	● 27	小林大悟 (高)	新美達也 (都)
総合成績		● 11	○ 12	都留文科大学	

表中○が勝ち、●が負け、数値が得点



たか けい グラフィティ

たかけいグラフィティでは、毎回高経大生をリレー形式で紹介しま
す。前回紹介した学生の皆さんからお友達を紹介してもらい、たく
さんの方に登場していただくコーナーです。
質問項目は①お名前②学年③学部学科④出身地⑤所属クラブ、サー
クル、ゼミ⑥お気に入りアイテム⑦おすすめのお店⑧キャンパスラ
イフの楽しみ方です。
あなたの番にまわってきたら、ぜひご参加ください。

体育会本部 鶴鷹祭公約実施



2013/6 鶴鷹祭



2013/08 放電自転車整理

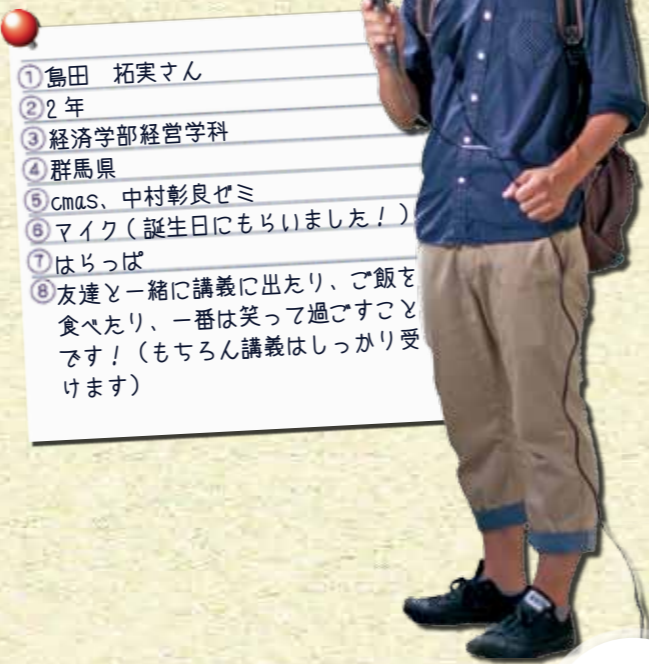


2013/09 防災訓練



2013/07 学内七夕飾り

2013/07-08 オープンキャンパス



- ① 島田 拓実さん
- ② 2年
- ③ 経済学部経営学科
- ④ 群馬県
- ⑤ cmas、中村彰良ゼミ
- ⑥ マイク(誕生日にももらいました!)
- ⑦ はらっぱ
- ⑧ 友達と一緒に講義に出たり、ご飯を食ったり、一番は笑って過ごすことです!(もちろん講義はしっかり受けます)

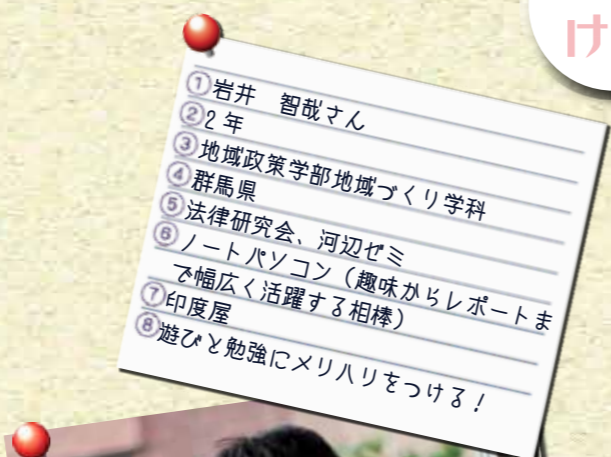


- ① 萩原 志織さん
- ② 3年
- ③ 地域政策学部地域づくり学科
- ④ 長野県
- ⑤ ローバースカウト部、岩田ゼミ
- ⑥ ユニフォーム(部活引退の際、後輩達から頂きました!!)
- ⑦ Gurumi
- ⑧ 力尽きるまで遊ぶ(´o´)/

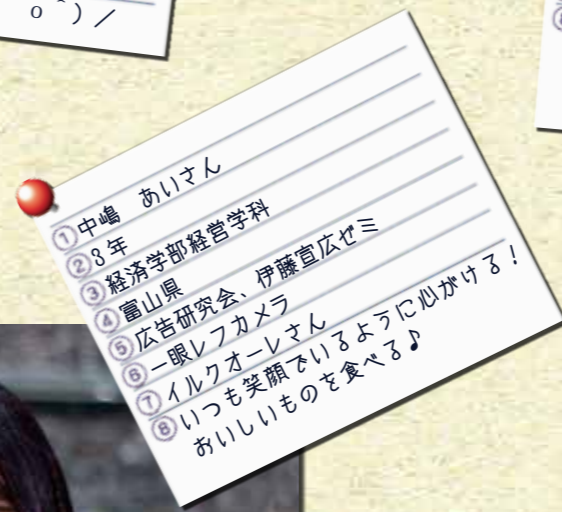


- ① 齊藤 直希さん
- ② 2年
- ③ 経済学部経済学科
- ④ 群馬県
- ⑤ 尾形ゼミ、バトミントン部
- ⑥ バック(初のバイト代で購入)
- ⑦ すき家(働いているので...)
- ⑧ 部活動に取り組んだり、図書館で気になる本を読んだり、友達と遊んだりすること

たか けい グラフィティ



- ① 岩井 智哉さん
- ② 2年
- ③ 地域政策学部地域づくり学科
- ④ 群馬県
- ⑤ 法律研究会、河辺ゼミ
- ⑥ ノートパソコン(趣味からレポートまで幅広く活躍する相棒)
- ⑦ 印度屋
- ⑧ 遊びと勉強にメリハリをつける!



- ① 中嶋 あいさん
- ② 3年
- ③ 経済学部経営学科
- ④ 富山県
- ⑤ 広告研究会、伊藤宣広ゼミ
- ⑥ 一眼レフカメラ
- ⑦ イルクオーレさん
- ⑧ いつも笑顔でいるように心がける! おいしいものを食べる♪



- ① 柴沼 西さん
- ② 3年
- ③ 地域政策学部地域づくり学科
- ④ 茨城県
- ⑤ あすなる学生会、吉原ゼミ
- ⑥ iPhoneのカバー(お気に入りの写真で作りました)
- ⑦ cafe あすなる
- ⑧ 1日24時間を最大限に使って、勉強して、遊んで、おいしいものを食べる。



たか けい グラフィティ

INTRODUCE - 新任教員紹介 -

一問一答 ①略歴 ②専門分野 ③趣味、特技 ④座右の銘 ⑤今後の抱負

佐藤 敏久 経済学部准教授



- ① 明治大学商学部卒業、明治大学大学院商学研究科博士後期課程修了（博士）、高崎商科大学大学院および商学部 専任講師、准教授を経て、高崎経済大学経済学部経営学科准教授、明治大学商学部、高崎商科大学商学部非常勤講師。
- ② マーケティング・コミュニケーション論、消費者行動論、マーケティングリサーチ、市場戦略論、ブランド論
- ③ 読書、音楽（楽器、聴くこと）、料理、工具収集、家事全般
- ④ 行蔵は我に存す、毀誉は他人の主張、我に与からず我に閑せず（勝海舟）
- ⑤ 研究においては飽くなき探求心を持ち続け、成果を出すこと、大学教育では、飽きさせない講義を展開、継続すること

永田 瞬 経済学部准教授



- ① 中央大学経済学部卒業、一橋大学大学院経済学研究科博士課程修了。博士（経済学）。一橋大学特任講師、福岡県立大学専任講師を経て、現職。法政大学大原社会問題研究所の研究員や、埼玉工業大学、駿河台大学の非常勤講師も務めました。
- ② 労働・産業経済論、経営労務論、社会政策論。最近では、繊維産業の人材育成について調査研究を進めています。
- ③ ラグビー、相撲、野球などスポーツ観戦は好きです。喫茶店にいったらぼーっとしながら、新聞や雑誌を眺めるのも好きです。また、ゆっくりすることも好きです。
- ④ 「信は力なり」。精神論ではないですが、こつこつ積み重ねること、目標や夢に向かって、少しずつ前進すること。自分の将来を切り開くにあたって、心にとめておきたい言葉です。
- ⑤ 子育てと仕事のバランスを保つこと（子供が小さいので）。繊維産業の人材育成の調査研究の成果を一定の形でまとめること。学生が主体となり、成長しうるゼミナールを作ること。

天羽 正継 経済学部講師



- ① 慶應義塾大学文学部卒業、東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。修士（経済学）。東京大学大学院経済学研究科・経済学部特任助教を経て現職。
- ② 財政学。特に、戦前から現代に至るまでの日本の財政金融政策史を中心に研究。
- ③ CD 収集。色々なジャンルの音楽を聴きますが、特にジャズ、ソウルなどのブラック・ミュージックが好きです。バンドでキーボードを弾いていたことも。
- ④ 知之為知之、不知為不知、是知也（知ったことは知ったこととし、知らないことは知らないこととする、それが知ることだ）（『論語』為政篇）
- ⑤ 巨額の財政赤字や消費税増税、社会保障改革など、財政は政治や経済だけでなく、私たちの暮らしにも深くかかわっています。やがて日本の財政を支えることになる皆さんの記憶に残るような講義ができるよう、努力したいと思っています。

大野 正人 地域政策学部教授



- ① 東京生まれ神奈川育ち。大学では森林や自然公園などのランドスケープを研究する林学科・森林風致研究室を卒業。その後、日本交通公社のグループ企業にて観光リゾート開発、またホテル・旅館や観光施設のマーケティング調査に携わり、公益財団法人日本交通公社では、旅行・観光の調査研究に従事。
- ② 旅行・観光に関するマーケティング全般、ホテル・旅館等の宿泊産業を中心とする観光産業のマーケティング、マネジメント、経営計画などです。また、地域と産業との関わり方については、温泉資源と温泉地、温泉旅館の在り方を研究しています。
- ③ 趣味は学生時代からやっていた登山・ハイキング、日常生活では映画鑑賞と読書です。
- ④ 座右の銘と言うほどではありませんが、旅に出て、異なる文化に触れ、異なる価値観を持つ人々と交流してみることが皆さんに勧められています。そこでは自分の人生を見つめ直す新しい発見が得られるはずですよ。
- ⑤ 日本の観光地の魅力を高めること。そのためには経済的裏付けに基づく地域政策と産業間の連携が重要と考えます。観光とは様々な地域資源と地域産業の総合により機能するものです。地域住民と地域の地場産業と地域の総合政策が一体となった観光地経営により地域の再生を目指します。

関口 智子 地域政策学部教授



- ① 茨城県出身。筑波大学卒業後、国際電信電話 (KDD) 入社。その後、カナダ、クイーンズ大学大学院にてフランス語文学研究科修士号、アメリカ、ワシントン大学大学院言語学研究科にて修士号、博士号取得。立教大学ランゲージセンター嘱託講師、東海大学外国語教育センター専任講師、准教授、教授を経て、2013年より現職。
- ② 言語学（統語論）、第二言語習得、通訳翻訳教育
- ③ バレーボール（小学校から初め、学校ではバレー部に所属）。ジョギング（フルマラソン3回、ハーフマラソン4回出場）。体力には自信がありましたが、最近では腰痛のためジョギングを断念。代わりにヨガと水中ウォークにはまっています。
- ④ 『意志あるところに道は開ける』
- ⑤ 学生の皆さんに、英語の面白さ、英語を使うことの楽しさを感じてもらえる授業をしていきたいと思っています。英語を通して、自分の世界を広げて行きましょう。

高橋 栄作 地域政策学部准教授



- ① 群馬県前橋市出身、弘前大学人文学部卒業、上越教育大学大学院 教科・教育専攻言語系英語コース修了、修士（教育学）。高崎経済大学他非常勤講師を経て、2013年より現職。
- ② 理論言語学、第二言語習得、ICT活用教育
- ③ 趣味は、ランニング。特に、真夏30度を超えるなかでのランニング、走った後の達成感とビールは最高！！
- ④ 志を得ざれば再び此地を踏まず。 野口英世
- ⑤ ICTを活用して、グローバル時代を生き抜く英語力の養成を目指します！ みなさん、本気で英語やりましょう！



写真部が行く ⑪ 今回の写真 地域政策学部 2年 桐井 将暢 さん

カメラが発明されて以来、時代の動きをリアルにそして細密に切り取ってきた写真家たち。そんな写真家を夢見て日々技術を磨く若者たちの練習の場所として、高崎をテーマにフリー取材を敢行するコーナーです。一撮入魂、今回はどんな高崎を切り取って来るのでしょうか？



高崎マーチングフェスティバル

戦後、高崎で群馬交響楽団が誕生したのが、「高崎」と「音楽」の関わりの始まりです。群響の奮闘を描いた映画「ここに泉あり」のヒットは、群馬県を「音楽モデル県」にし、群響のホームグラウンド、群馬音楽センターの建設に至ります。その後、半世紀以上経った今もなお、群響は高崎市の「顔」として活躍し、高崎市は「音楽のある街・高崎」としてあり続けています。

今年で22回目を迎える「高崎マーチングフェスティバル」は、そんな高崎市を代表する音楽イベントです。市制90年から毎秋10月の恒例行事として、高崎市内の60団体延べ5,000人以上の参加者が、市街地を音楽で華やかに彩ります。



INTRODUCE - 倶楽部紹介 -



体育会

no.72

自動車部



私達自動車部は1959年に創部され、今年で53期目と、半世紀に渡り活動している部です。部員数は1~4年生まで合わせて16人と少ないですが、タテ・ヨコの繋がりを大事にし、非常に良い雰囲気の中で練習に取り組んでいます。

私達はジムカーナという競技をメインに活動しています。ジムカーナとは、公道ではない広い舗装路面上にパイロンを設置し、コースを決め、そのコースをいかに速く走れるか、というものです。練習は月に2回と少ないので、質を重視した練習をみなかみ町にて行なっています。私達が部として出場する大会は8月末~9月上旬に行われる関東甲信越学生自動車連盟競技会のみであるため、部員全員がそこに向けて研鑽を積んでいます。特に、今年は私達が主催のため、大会の成功を目標として、全員が一丸となって、主催に向けた準備を進めました。また、部としてではなく、個人でサーキットでの走行会やレースに出場している部員もいます。

近年、若者の車離れが叫ばれ、エコカーが日本車の主流となっている中、モータースポーツも下火になりつつあります。その流れに逆行するような我が部ではありますが、OBの方々が築いてきた伝統を重んじ、その伝統を汚さないようにより一層の努力をしていきたいと思ひます。

部長 地域政策学部 3年 池田 岳さん

文化サークル

no.73

ギタークラブ



皆さんの多くが「ギター」と聞いて、エレキギターやアコースティックギターを想像すると思います。ですが、私たちギタークラブは「クラシックギター」を演奏するサークルです。部員には、クラシックに元々興味があった人、中には全く無かった人など様々ですが、週二回みんなで楽しくギターを弾いています。

私たちの活動で、特に重要な演奏会が二つ挙げられます。一つ目は、毎年9月半ばに開催される「群馬学生ギター・マンドリンフェスティバル」です。この演奏会は、群馬県内の大学・高校のギター部、マンドリン部が合同で開催するものです。群馬大学、高崎高校、前橋高校をはじめ、毎年多くの学校が参加します。そのため規模としても一番大きな演奏会と言えますが、なにより他の学校との交流を深め、協力し合って作り上げるこの演奏会は、非常に貴重な経験になります。

二つ目は、集大成として年末に行う「定期演奏会」です。この演奏会では、一年を通して作り上げてきた演奏を全て披露します。特に、この演奏会をもって代替わりとなる幹部学年、最後の演奏会となる4年生にとっては一生に残る演奏会となります。

この他にも学園祭などの大学のイベントや、企業や団体の依頼による演奏を行っています。ギタークラブは、これからも楽しくギターを練習し、積極的な活動を行っていきたく思います。

部長 経済学部 3年 茂木 聡志さん

今年の三扇祭は11月1日(金)から4日(月)まで開催します。今年のテーマは「良空間(いくうかん)」。いつもの見慣れた構内が、非日常的な楽しい空間になります!参加者・来場者が一体となって創りあげる「良空間」をお楽しみください。また11月3日(日)には、本学卒業生のみなさんやそのご家族などを対象に、ホームカミングデイを同時開催します。大学を1日開放し、卒業生同士や在学生、教員との交流を深めていただくことを目的としたイベントです。懐かしい母校を体感できる機会です。ぜひお声合わせのうえ、お気軽にご参加ください。



ホームカミングディ予定

イベント	開始時間
記念式典	13:00
記念講演会 演題 / 「大好き、高崎経済大学」 講演者 / 笑福亭鶴吾さん	13:30
交流会	15:00

後援会

<http://www.tcu.ac.jp/about/supporter/koenkai>

高経大後援会学生奨学金について

本学学生の学業と生活の支援を目的とした奨学金制度です。奨学金額は授業料の3分の1で、対象者は前期、後期に実施される授業料減免申請の許可者中、特に成績優秀な学生を事務局で推薦します。

高経 TOEIC 成績優秀者を表彰します

本学学生の英語能力向上に寄与するため、TOEIC 公開テストで700点以上を獲得した学生に対して、賞状及び記念品の授与を行います。表彰を希望する方は平成26年2月

28日までに申請書の提出をお願いします。

合宿などにご利用ください

◆保養券利用可能施設

施設名	連絡先
ゆうすげ元湯	027-374-9211
レークサイドゆうすげ	027-374-9131
はまゆう山荘	027-378-2333

上記3施設に宿泊を希望する学生に対し、保養所助成券を発行しています。●助成額=4,000円 ●利用資格=本学在学生

◆厚生施設

施設名	連絡先
高経会館	027-344-1521
白馬セミナーハウス	0261-71-1164

教職員、学生、同窓会員等の皆様を対象とした、宿泊・研修施設です。

●お問い合わせ等=後援会事務局(総務グループ内):電話027-344-7902併せて上記アドレスの高経大ホームページ中、後援会ページもご覧ください。

交換留学生



ドイツのルードヴィヒスハーフェン経済大学(FHLU)から2名の交換留学生がやってきました。ノル・クリストファーさん(写真左)は経済政策を、マルクス・ダビッドさん(写真右)はマクロ経済学を専攻します。2名は9月に初めて高経大を訪れ、教職員の優しさとキャンパス内の緑の多さが印象的だと話します。今後は高経大で、勉強はもちろん、友人を沢山つくり、日本ならではのごはんを食べてみたいそうです。2013年度後期から2014年度前期まで、高経大生と一緒に勉強する予定です。

図書館 <http://www.tcu.ac.jp/tsyokan/>

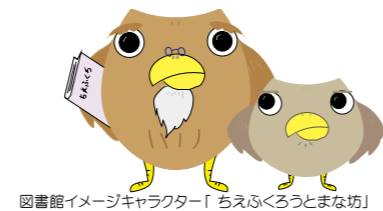
ILLサービスを活用しよう

ILL(Inter Library Loan)とは、高崎経済大学が所蔵していない資料や、資料の一部の複写を他の図書館から1週間程度取り寄せることができるサービスです。

複写料金・送料等実費は依頼者の負担となりますが、みなさんの研究・学習に必要な資料の入手をサポートするために、これまで申込者負担であったILL費用については、一部の場(国立国会図書館の資料の取り寄せ、海外の図書館からの資料取り寄せ等)を除き、学生1人あたり3,000円まで高崎経済大学が負担するという試みが、今年度秋から本格実施になりました。ILLのご利用は、図書館2階カウンターまでご相談ください。●問い合わせ=研究グループ図書館チーム:電話027-344-6266

各コーナー推薦図書のご紹介 9月現在

教員推薦本	<ul style="list-style-type: none"> 統計学が最強の学問である タックス・ハイブ いま、「憲法改正」をどう考えるか 資金デフレ キャリア教育のワソ
教員著書	<ul style="list-style-type: none"> ケースに学ぶ日本の企業 山村における事業展開と共有林の機能 ドゥルーズの哲学原理 ハーバード白熱教室 プロジェクトXシリーズ
視聴覚資料(DVD)	<ul style="list-style-type: none"> プロフェッショナル仕事の流儀シリーズ ブラック・スワン



図書館イメージキャラクター「ちえぶくろうとまな坊」

公開講座

テーマ「高崎の地域課題と将来展望を考える」 ◆講義形式…全11回

回	開講日	テーマ	講師
1	9月25日 水	高崎市の地理的特性と地域政策的視点	西野 寿章(地域政策学部教授)
2	10月2日 水	高崎食品リサイクルループ事業の展開と可能性	大宮 登(地域政策学部教授)
3	10月8日 火	産学協働による地産地消の推進と地域活性化の試み - 「たかさき昼市」を例にして -	久宗 周二(経済学部教授)
4	10月16日 水	高崎中心商業地のあり方そして標名神社	戸所 隆(地域政策学部教授)
5	10月22日 火	自治体の国際戦略	佐々木 茂(経済学部教授)
6	10月30日 水	高崎市議会の制度的変遷と課題	増田 正(地域政策学部教授)
7	11月6日 水	高崎市の生活路線バスの変遷と現状を考える	大島 登志彦(経済学部教授)
8	11月14日 木	高崎市における新しい文化活動支援の方向性とその意義	友岡 邦之(地域政策学部教授)
9	11月22日 金	データで見る新高崎市の金融	今野 昌信(経済学部教授)
10	11月27日 水	生涯学習と地域づくり - コミュニティ・ガバナンスをめぐる各地の動向から -	櫻井 常矢(地域政策学部教授)
11	12月3日 火	高崎市の農業構造・農業振興政策・多様な経営展開	村山 元展(地域政策学部教授)

現在、公開講座を実施しています。興味のある方はお問い合わせください。●対象=18歳以上 ●受講料=2,000円 ●問い合わせ先=「公開講座」係:電話027-344-6244

リレー講義後期

テーマ「課題先進国日本における企業の進路」

◆経営学科担当

回	開講日	テーマ	講師
1	9月25日	少子高齢化と日本企業の進路	国立社会保障・人口問題研究所 副所長 金子隆一
2	10月2日	高齢化に対応した日本の医薬品業界の戦略と取り組み	元シンバイオ製薬株式会社 木村薫
3	10月9日	世界から見た課題先進国日本の現状	元国際協力銀行 理事 古屋昭彦
4	10月16日	エネルギー問題と日本企業の進路 ~原子力発電の今後の戦略と見直し~	元日立製作所 理事 櫻井三紀夫
5	10月23日	再生エネルギーの今後の戦略と見直し1 ~風力、バイオ、地熱他~	元豊田通商株式会社 専務取締役 石陸隆男
6	10月30日	再生エネルギーの今後の戦略と見直し2 ~太陽光、太陽熱他~	元日本プラスチック工業連盟 専務理事 金子勇雄
7	11月6日	環境問題と日本企業の進路(総論)	元三菱マテリアルテクノ株式会社 環境エネルギー 事業部長 飯田孝司
8	11月13日	食糧問題と日本企業の進路	元丸紅エック株式会社 社長 酒井尚平
9	11月20日	地球環境問題への取り組み事例1	元佛匠原製作所 取締役 大谷浩一
10	11月27日	地球環境問題への取り組み事例2 ~鉄鋼メーカーの取り組み~	株式会社コサイエンス 代表取締役 高橋邦雄
11	12月4日	地球環境問題への取り組み事例3 ~化学メーカーの取り組み~	元帝人株式会社 専務取締役 高野直人
12	12月11日	アジア新興国の台頭と日本企業の進路	元台湾三井物産 董事長兼総経理 高寛
13	12月18日	新興国におけるメガバンクの戦略と今後の取組み	元東京三菱UFJ銀行 常務取締役 浜川雅春
14	1月8日	日本の自動車メーカーの強みと新興市場への戦略	元日産自動車株式会社 海外サービス部統括 山崎雅史
15	1月22日	課題先進国日本における企業の進路 ~技術開発が未来を拓く~	元三菱化学株式会社 取締役 浅野広孝

●時間=14時20分から15時50分 ●場所=高経大7号館731教室 ●受講料=無料 ●申し込み=不要 ●問い合わせ先=教育グループ教務チーム:電話027-344-6264

同窓会

今年度各地で開催される、同窓会

支部総会の今後の予定をお知らせします。出身県、近県の方はぜひご参加ください。在校生も大歓迎です。●お問い合わせ=学生支援チーム(同窓会事務局):電話027-344-6262

支部	開催日時	開催場所
四国合同支部	10月19日 17時~	高知サンライズホテル
静岡支部	10月19日 17時半~	静岡グランドホテル中島屋
宮城支部	10月19日 17時~	ジャルシティ仙台
広島支部	10月26日 17時~	メルパルク広島
関西支部	11月9日 16時~	梅田 玉姫殿
岩手支部	11月下旬	未定
飯田支部	11月30日	未定
大分支部	12月7日	未定
青森支部	12月1月	未定

今回の表紙

「cafe あすなる」



半年の準備を経て6月に開店したcafe あすなる。これまであすなるを引っ張ってきた学生リーダーのほとんどは、就職活動のため10月で引退し、新たなリーダーに交代する。時の流れが緩やかに感じる店内とうらはらに、厨房の中にいる学生たちの時間の流れは早い。

経済学部学生数

1年	2年	3年	4年	計
508	522	498	609	2,137
(131)	(130)	(138)	(134)	(533)

地域政策学部学生数

1年	2年	3年	4年	計
461	473	510	566	2,010
(164)	(179)	(189)	(207)	(739)

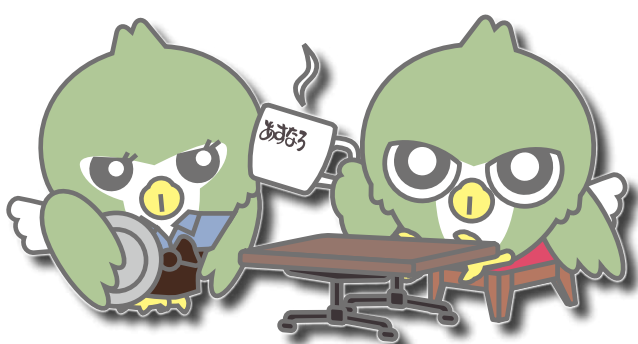
経済・経営研究科学生数

前1年	前2年	後1年	後2年	後3年	計
5	4	1	0	2	12
(2)	(2)	(0)	(0)	(0)	(4)

地域政策研究科学生数

前1年	前2年	後1年	後2年	後3年	計
12	18	1	2	4	37
(6)	(10)	(1)	(0)	(2)	(19)

数値は人、○内は女性数:2013年9月現在



2013